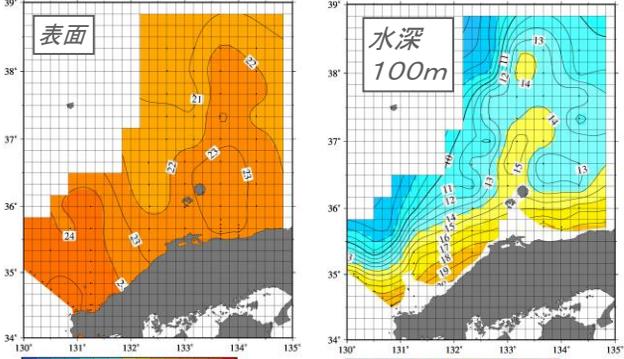
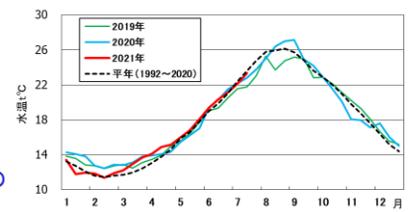




鳥取沿岸の水温

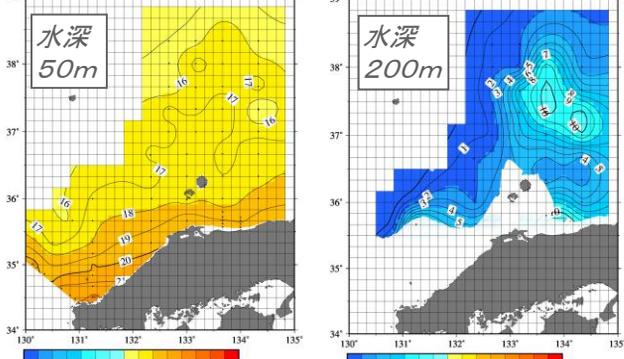
鳥取県栽培漁業センター 沈砂槽
(電話:0858-34-3321)

7月中旬 23.3℃
平年より 0.2℃低め



鳥取県沖と隠岐諸島周辺海域の水温は22～23℃で、平年(直近20年)並みの値を示しています。

水温は13～17℃を示し、平年並の値を示しています。



水温は17～19℃を示し、平年よりやや高め(+1.3℃)を示しています。

鳥取県沖北緯36°50'以北に7～10℃を示す暖水域があります。

7月上旬の水塊配置と対馬暖流



| | |
|-----------|---|
| 鳥根沖冷水域 | ・10℃以下の冷水域が山口県沖N35°20'以北に認められます。 |
| 山陰・若狭沖冷水域 | ・10℃以下の冷水域が、隠岐諸島北方と鳥取県沖ではN36°以北に認められます。 |
| その他暖水・冷水域 | ・14℃以下の冷水域が、山口県～鳥根県沖N35°～N37°以北、鳥取県沖N36°10'以北に認められます。 |
| 対馬暖流の流路 | 主流は朝鮮半島東岸に沿って北方に向かい流れています。主流の一部は、山口県～鳥根県沖の14℃等温線に沿って北東へ流れ、その後、隠岐諸島の北方に向かい流れています。鳥取県沖では、14℃等温線に沿って東方に向かう流れが認められます。 |

※県内の漁獲情報については水産試験場ホームページ(鳥取県水産試験場で検索してください)に詳しく掲載しています、是非ご利用ください。

境港水産事務所

夢みなとターミナルで職域接種がスタート！！

境港の水産関係事業者を対象とした新型コロナワクチンの職域接種が竹内団地の夢みなとターミナルを会場にスタートしています。水産業、水産加工業の感染防止を進めることにより食の安定供給の使命を果たそうと、境港の水産関係事業者が一枚岩となって取り組み、実現したものです。鳥取県水産振興局協力のもと(一社)境港水産振興協会には、その先頭に立って申請からあらゆる事務手続き、当日の段取りまで担っていただきました。そのおかげでスムーズに接種が進んでいます。初日の7月7日には、共和水産の大型旋網船「第8光洋丸」がターミナル岸壁に着岸し、約50人の乗組員が接種を受けました。船から下りてそのまま接種会場に入ることができるのも境港の港湾インフラがあってこそ。他では見られない光景です。これから8月28日までの16日間で2,200人が2回の接種を終える予定です。



※クルーズ船ターミナルに漁船が着岸する光景はこの接種が終われば見る事ができないでしょう

水産試験場

今年は大クラゲにご用心ください

大型クラゲ(エチゼンクラゲ)は、令和3年7月20日現在、鳥取県への来遊は確認されていません。ただ、7月13日の情報では、山口県で今年度初確認の報告があり、鳥根県浜田の定置網でも種不明ですが、20個体の入網があったとの報告がありました。また、長崎県対馬では7月19日に定置網で**最大1000個体/日**(傘径40cm程度)の入網が報告されています。現時点での大型クラゲの発生状況は、ここ10年では**2019年に次いで2番目に多い**状況です。早ければ7月下旬には鳥取県沖に来遊しますので、ご注意ください。また、発見された方は水産試験場 太田(電話0859-45-4500)までご連絡をお願いします。

【最新の大クラゲ情報の入手方法】
水産試験場ホームページのお知らせ欄に「**大型クラゲ情報**」のリンクがあります。今後、週1回程度の頻度で更新しますので、最新情報をチェックしてください。なお、リンク先には、JAFIC(一般社団法人 漁場情報サービスセンター)と(国研)水産研究・教育機構の情報も確認できます。

【今後の監視体制】
8～11月の4ヶ月間、霞霧・境港地区の小型底びき網漁船各1隻に標本船調査をお願いし、鳥取県沖への来遊状況を把握します。そのほか、漁業者からの報告があった場合や県が実施する試験操業等で確認された場合には、水産試験場のホームページで随時、情報提供します。

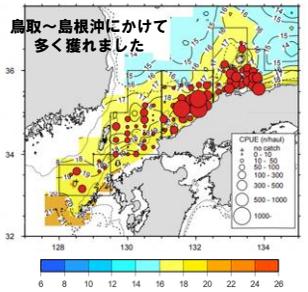


水産試験場

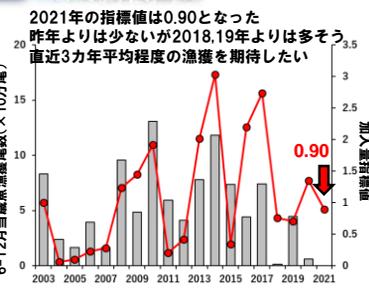
マアジの加入量調査結果について



水産試験場では2003年から毎年5～6月にかけて「マアジ新規加入量調査」を行い、その年の秋以降の当歳魚についての漁獲予測を行っています。この調査は、試験船「第一鳥取丸」で稚魚採集用の中層トロール網を曳網し、その年生まれのマアジ幼魚(体長4cm程度)の分布量がどれくらいかを把握するものです。※山口県・鳥根県および(国研)水産研究・教育機構と連携し、広域で調査を実施。今年度の調査では、海域ごとの採集数にはばらつきが大きかったものの、鳥取県～鳥根県にかけての沿岸域を中心に、比較的多くのマアジ幼魚が確認出来ました。今年のマアジの加入は多すぎず少なすぎずといったところと考えられ、秋以降にまき網で境港に水揚げされる量は、直近3カ年平均程度と予想されます。マアジ対馬暖流系群の資源量は2016年から減少傾向が見られています。限られたマアジ資源を大切に獲り続けることが重要になります。



2021年度調査でのマアジ採捕量(円の大きさがマアジ採捕量を示す)



加入量指標値と6-12月まき網当歳魚漁獲尾数

令和3年4月から下記2社の広告を1年間掲載することになりました。

いつの時代も、技術とサービスをもって水産業・漁業の皆様を支援してまいります

西日本ニチモウ株式会社

本社 山口県下関市小月小島2丁目3-17 〒750-1136
電話 083-282-4041(代表) FAX 083-282-0424
境港営業所 鳥取県境港市栄町67番地 〒684-0006 電話 0859-44-0475 FAX 0859-42-6330

潮に夢を **共和水産株式会社**

代表取締役 前橋 知之

〒684-0006 鳥取県境港市栄町65番地
TEL:0859-44-7171(代) FAX 0859-42-6530